大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

吉祥寺本町二丁目付近にて

no.71

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

この作品は、吉祥寺駅に近い井ノ頭通りの歩道から、南東方向を見て描いたものである。今回は、意識的に中央線の電車を描いてみようと、場所を選んで写生をした。

電車にこだわったのには、それなりに訳がある。それは、約五十年前に私が国鉄に在職中だった頃、一年間電車の運転士をしたことがあったからである。乗務していた路線は、中央線ではなく、高崎線と上越本線で、主に通勤電車や特急電車の運転をしていた。

当時の鉄道は踏切が多く、運転中に緊張して、ハンドルを握る手が汗ばむこともあったが、その点、現在の中央線は踏切があまりないので、今の運転士は多少運転がしやすくなったのではないだろうか。私にとっての運転経験は、かなり昔のことなので、ほとんど忘れかけているが、たまに夢に見てうなされることがある。写生中、電車を描いてみて、当時のことが懐かしく思い出された次第である。

（絵と文：大須賀一雄）

Profile

大須賀一雄
（おおすか かずお）

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。